

金曜は
週末
スタイル

金 スポ !!

多田 五輪切符は「大阪の夢」



陸上日本選手権の男子1000mで優勝し、ガッツポーズをみせる多田（左から2人目） 6月25日、ヤンマースタジアム長居（松永渉平撮影）

陸上男子1000m

6月下旬に大阪市で開催された陸上の日本選手権。男子1000mで多田修平（住友電工）が10秒15で優勝し、自身初の五輪となる東京五輪代表の座を射止めた。「ここまで来るのはすごい長かったけど、皆さんの支えがあったからこそ、ここまで来られたと思います」。普段は笑顔がトレードマークの多田はレース後のインタビューで目に涙を浮かべながら、感謝の思いを口にした。大阪府東大阪市出身で、大学まで関西で過ごし、多田は関西の選手。大阪陸上競技協会にとっても、大阪ゆかりの選手を五輪の舞台へ送り出すことは大きな夢でもあった。（丸山和郎）

関西の財界 強力バックアップ

プロジェクト発足

「なにわの街からオリンピックを」。そんな思いから大阪陸協が選手育成事業として「OSAKA夢プログラム（夢プロ）」を発表したのは2015年秋のこと。13年に東京五輪の自国開催が決まった後、五輪を目指す選手たちがトレーニング環境の充実などを求め、東京に活動拠点を移す傾向が強まっていた時期でもあった。

大阪陸協会長でもある松本正義・住友電工会長は「大阪にはポテンシャルの高い競技者が多くいる。大阪からオリンピックが出ることで街の活性化にもつながる」と話し、選手の合宿費の負担や海外からのコーチ招聘などを強化の柱とする「夢プロ」の設立を発表。東京五輪までの5年間で総額2億5千万円の予算を組み、関西に拠点を置く企業や一般からの募金を呼びかけた。

多くの企業からの賛同をえて、資金は順調に集まった。新型コロナウイルスの影響で東京五輪の1年延期が決まった後も、開催が不透明な状況の中、追加の支援に快く応じてくれた企業もあったという。大阪陸協



レース後のインタビューで目頭を押さえる多田

「夢プロ」の今年度の指定競技者

選手	所属	主な種目
多田 修平	住友電工	男子1000m
小池 祐真	住友電工	男子1000m
丸山 優真	住友電工	男子十種競技
松田 瑞生	ダイハツ	女子マラソン
川田 朱夏	東大阪大	女子400m
青山 聖佳	大阪成蹊AC	女子400m
佐藤 友佳	ニコニコのり	女子やり投げ

(注)丸数字は年齢

の竹内専務理事は「関西の財界の力は大きいと感じた。何年もかけた計画だったので、五輪代表が誕生して、正直ほっとしている気持ちもある。多田君も百パーセント以上の成果を出してくれた」と振り返った。

海外遠征で強化

夢プロの設立当初は、大阪にゆかりのある若手選手20人以上を強化指定選手に選んでいたが、より実効性のある強化を進めるため、日本選手権などの成績に応じ、年度ごとに選手の絞り込みも行っていった。今年度の強化指定選手は多田をはじめとした7人。多田と同じ住友電工所属の小池祐真も男子1000mで代表入りを果たし、女子マラソンの松田瑞生（ダイハツ）も補欠で代表メンバーに名を連ねた。

パリ五輪も視野

多田はここ数年、思うような結果を出せず、五輪の1年延期で気持ちが上がらない時期もあったが、夢プロなど周囲の支えもあって目標を見失うことなく、トレーニングを続けてきた。日本選手権で多田が優勝した瞬間には、大阪陸協の関係者たちもみんなで万歳して喜びを分かち合ったという。もともと東京五輪を大きな目標にしてきたプロジェクトではあるが、竹内専務理事は「まだまだ若い選手が多いので、24年パリ五輪に向け、事業を継続していくことも今後考えていければ」と話す。もちろん、その前に、東京五輪の夢舞台が待っている。夢プロには、五輪メダルがあり、多田には4000億円以上の金メダルの期待もかかる。リレーの第1走者に意欲をみせているスプリンターは「いいスタートを切りたい流れをつくって、金メダルを獲得できるように頑張りたい」。国立競技場で展開されるレースに、大阪も熱く盛り上がる。